

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.3

浮世絵と動物

日野原健司

「国立国会図書館サーチ」をリニューアルしました

NDL Ngram Viewer を使ってみました

第3回 NDL Ngram Viewer の使い道

日比嘉高



国立
国会
図書館
月報

NO. 755
MARCH 2024

CONTENTS

- 1 『でたらめ』
— 後の首相が教えるマナー —
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 5 浮世絵と動物
日野原 健司
- 15 「国立国会図書館サーチ」をリニューアルしました
- 22 NDL Ngram Viewer を使ってみました
第3回 NDL Ngram Viewer の使い道
日比 嘉高

- 14 館内スコープ
動物たちは書物の中にも
- 24 本屋にない本
『つなぐ 上野動物園ジャイアントパンダ
飼育の50年』
- 25 NDL Topics



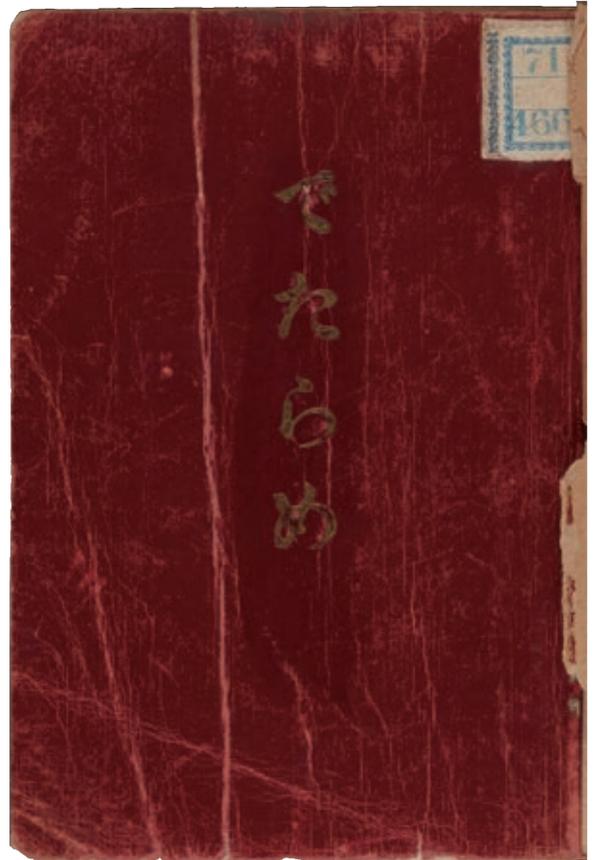
表紙：「雛市」富岡永洗
『時事画報』2巻5号
時事画報社 1899.3 26cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1544984/1/3>

『でたらめ』 — 後の首相が教えるマナー —

米井大貴



順序構わずデザートを食べる人



表紙

でたらめ

大阪毎日新聞社 編 東枝律書房 明治32 244p; 16cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/899487> (モノクロ画像)

洋食が一般化し、海外との往来が頻繁になった現在においても、食事の席で振舞いに迷ったり、外国人と接する機会に緊張したりすることは少なくない。外国との交流が少ない時代の日本人は、現代人よりも一層不安だったことだろう。

今回紹介する『でたらめ』は、明治32(1899)年に出版されたマナー本である。著者の「でたらめ記者」が、ユーモアを交えながら外国人と接する上で注意すべきマナーを解説している。本書は、『大阪毎日新聞』の明治31年11月25日から明治32年5月3日までの連載を書籍化したものである。著者が思い出すまま順序を気にせずに書いたため、「でたらめ」と題したということである。

本書は49の節で構成され、当時の日本人に多かった不作法を取り上げている。特に食事の席に関する内容が多い。例えば、「洋食の食方」では、「今の洋食の食方を知らぬ人達の有様を見ると、肉が来やうが野菜が来やうが、(中略)其度に塩を掛けたり胡椒を掛けたりして居る、切角付けた味ひと云ふものは、之が為めにもう失くなつて仕舞つて食へないものになる」と批判している。食事の順序についても、献立の順や運ばれてきた順に食べ、テーブル備え付けのデザートは最後にするべきで、「時も構はず無闇に此菓子や水菓子を取て食ふ連中がある」ことを嘆いている。



明治期の写真師・玉村康三郎が、白黒写真に手彩色を施し、英語のキャプションを付けて出版した写真集に収められた祇園祭の様子。右下部分に傘をさしている人が見える。

出典: *Famous scenes in Japan*. Yokohama: K. Tamamura, [19--]. (<https://dl.ndl.go.jp/pid/1675810/1/103>)



人前で音読する人

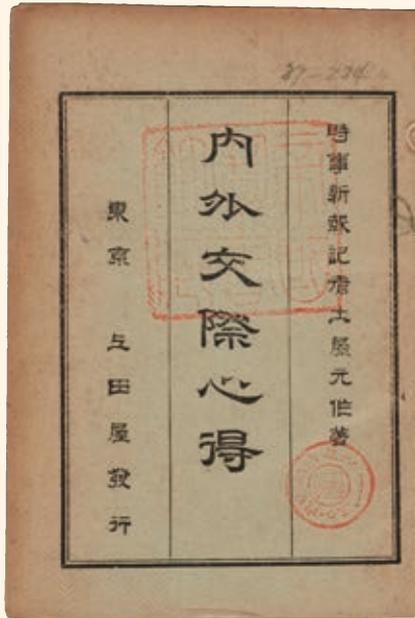
当時の習慣を窺い知ることが出来る節もある。「音読の事」という節は、当時、文を読むため音読する人がいたことを指摘し、「人前で音読するだけは止めぬと、他人が迷惑する」「新聞などを取り出して呻り始める人は毎度汽車中にある、何分同車中の者は困り切る」などと評して、人前での音読をやめるよう勧めている。

ただし、本書は、安易な西洋の真似を勧める書ではない。「西洋真似損ひ」という節は、「無理に西洋丸出を遣たがって居る弊」を指摘する。一例として、日本と欧州の氣候の違いを指摘し、男性の日傘について、「欧羅巴では氣候の関係上翳さぬのであるのに、夫は無理に苦しんで西洋の真似をしている」「是等の事は其土地の氣候に因ること、決して無理に真似るには及ばぬ」として、状況に応じて合理的に判断することを勧めている。近年増えている男性の日傘使用が想起される点でも興味深い。

著者は、本書執筆の理由について、「新条約実施」と同時に行われる「内地雜居」（外国人に国内を開放し、どの場所においても外国人の居住を認めること）を前に、頑固に旧慣を維持するわけにはいかなかったため、こうしてはどうかと思うところを書いてみたとしている。「新条約実施」とは、明治32（1899）年の日英航海通商条約（明治27年締結）等の

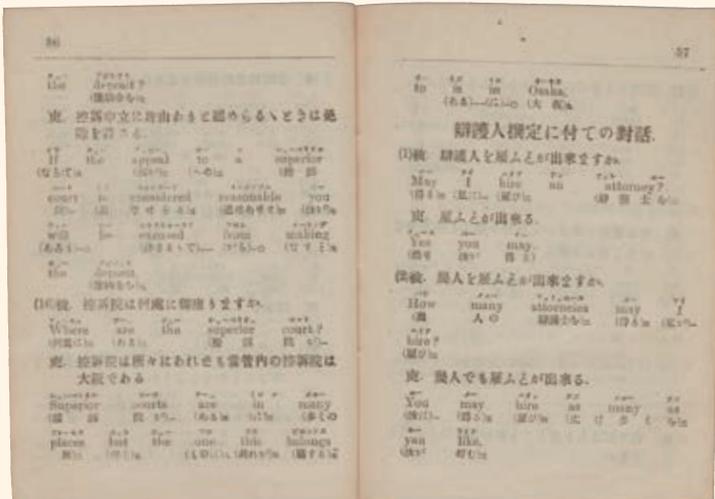
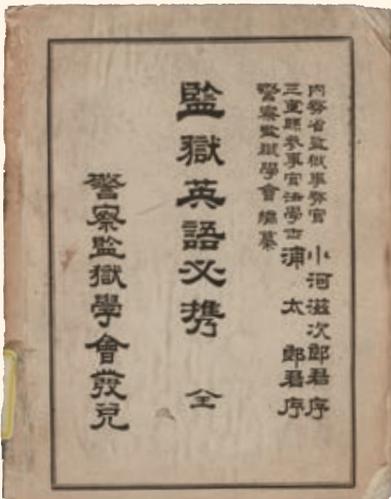
同時期に出版された啓蒙書

当時の啓蒙書の一つ、土屋元作『内外交際心得』は、日本人と外国人の習慣や服装などについて解説している。また、英会話の手引書も出版された。英会話の手引書の一例である『監獄英語必携』には監獄での英会話例が載っている。なお、『でたらめ』の「警察官」という節では、「警察官たるものは何うなり斯うなり一箇国や二箇国の言葉が解らぬではその職務を行へやうがない」として、外国語の学習を勧めている。



(左) 土屋元作『内外交際心得』上田屋書店, 明治32
<https://dl.ndl.go.jp/pid/759168> (モノクロ画像)

(下) 2点とも警察監獄学会編『監獄英語必携』警察監獄学会, 明治31
<https://dl.ndl.go.jp/pid/871454> (モノクロ画像)



実施のことで、当時は類似の啓蒙書が多数出版され、流行となっていた。「内地雑居」によって外国人と接する機会が増えると考えられたのか、本書の元になった連載も注目されたようである。連載を「最も必要の記事」とし、服装についてもっと書いてほしいと希望する投書が、「或人に答ふ」という節で紹介されている。

実は、本書の著者「でたらめ記者」は、後の首相である原敬である⁽¹⁾。原は、新聞記者、外交官などを経て、当時は大阪毎日新聞社長だった。本書執筆には、3年余りのパリ赴任などの外交官時代の経験が生きたことだろう。本書を紹介した広告(次頁)に「原敬氏の談屑なるべし」(「談屑」とは、話の種を屑のように多く持っていること)という書評が載っていることから、著者の正体は知られていたようだ。

原はその後、政治家となる。大正7(1918)年には首相に就任し、初の本格的政党内閣を組織した。

著者を知った上で本書を読むと、その後の原に通じる姿勢を見いだすこともできる。例えば、「内外人の交際(二)」という節は、外国人を阻害したり、臆したりせず、労わりながら親密に交際することを勧めている。首相になった原は、海外メディアの取材を積極的を受けて日本への信頼醸成を図り、対米協調



原敬（出典：『近代日本人の肖像』（https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/172/）



原敬の葬儀。遺言に従い、地元盛岡で行われた。（出典：東洋文化協会編『幕末・明治・大正回顧八十年史 第21輯』東洋文化協会、昭和12(1937) https://dl.ndl.go.jp/pid/8797977/1/7)



●神戸新聞批評 原敬氏の談屑ふるべし日常舉動心得ざるべきものくさんくを集めたれば一寸一讀の値あり

原敬『漢字減少論』（大阪毎日新聞社、明治33（1900）https://dl.ndl.go.jp/pid/861980）に掲載された『でたらめ』の広告。「原敬氏の談屑なるべし」とする『神戸新聞』の批評が載っている。

- 1 「原敬年表」（『原敬全集 下巻』原敬全集刊行会、1929 https://dl.ndl.go.jp/pid/1272357/1/641）に、明治31年10月の連載として載っている。なお、実際に紙面に掲載されたのは、明治31年11月25日から明治32年5月3日までである。
- 2 「遺書」（原敬〔著〕、林茂・原奎一郎編『原敬日記 第6巻』福村出版、2000、p.190 <請求記号 GB411-G161>）

○参考文献

「でたらめ」（『原敬全集 上巻』原敬全集刊行会、1929 https://dl.ndl.go.jp/pid/1272324/1/486）
 原敬『でたらめ』盛岡市原敬記念館、2004（原敬名義の復刻版）<請求記号 EF35-J156>
 原敬〔著〕、林茂・原奎一郎編『原敬日記 第6巻』福村出版、2000 <請求記号 GB411-G161>

伊藤之雄『原敬 外交と政治の理想』講談社、上巻（2014）<請求記号 GK178-L145>、下巻（同）<請求記号 GK178-L146>
 稲生典太郎『日本外交思想史論考 第1（条約改正論の展開）』小峯書店、1966 https://dl.ndl.go.jp/pid/2992413
 小宮一夫『条約改正と国内政治』吉川弘文館、2001 <請求記号 GB441-G62>
 清水唯一朗『原敬 「平民宰相」の虚像と実像』中央公論新社、2021 <請求記号 GK199-M2258>
 原奎一郎『原敬』原敬遺徳顕彰会、1976 <請求記号 GK199-M3704>
 『原敬新聞界で活躍 マスコミ経験が総理への大きな資質に 第三十回企画展』（原敬研究資料 原敬日記を繙く 34）原敬記念館、[2003] <請求記号 Y121-H1157>
 『政界への雄飛 原敬100回忌特別企画展 後編』（原敬研究資料 原敬日記を繙く 68）[原敬記念館]、[2021] <請求記号 Y93-M8409>

※原則、引用の旧字は新字に、旧かなづかいはママとし、一部の漢字にルビをふった。

外交を志向したとされる。本書刊行の22年後、原は凶刃に倒れた。生前、原は生花等を辞退する遺言を残していた。本書の「葬式の弊風」の節では、葬儀で花などを贈る虚飾を排すよう主張しており、葬儀について一貫した考え方を持っていたようだ。

浮世絵と動物

日野原 健司

HINOHARA Kenji

太田記念美術館 首席学芸員

浮世絵専門美術館の学芸員としてさまざまなテーマの展覧会を手掛け、浮世絵の魅力を伝えている。『かわいい浮世絵』『ようこそ浮世絵の世界へ 英訳付』（東京美術）、『北斎 富嶽三十六景』（岩波書店）、『浮世絵動物園 江戸の動物大集合！』（赤木美智 渡邊晃と共著、小学館）など編著書多数。



国立国会図書館は、数多くの浮世絵を所蔵しており、なかでも動物が描かれた浮世絵は人気があります。2010年、2017年、2022年に展示会「浮世絵動物園」を開催するなど浮世絵の魅力を発信している太田記念美術館の学芸員・日野原健司さんに、動物を題材とした浮世絵について解説していただきました。

近年、浮世絵の中で関心を集めているのが動物を題材とした作品である。特に猫を描いた浮世絵は人気が高く、この十年ほどの間に日本各地の美術館で猫の浮世絵をテーマとした展覧会が開催されるほどになった。世間での猫ブームとも重なって、浮世絵に関心があるかないかに関わらず、猫好きたちを広く惹きつけたようだ。

そもそも浮世絵とは、江戸時代から明治時代にかけて制作された、浮世＝現在の世の中を描いた絵のことを指す。実際には、歌舞伎役者や美しい女性たち、あるいは日本各地の風景が主な題材となっている。それらの膨大な量に比べれば、動物を描いた浮世絵の割合は微々たるものにしかならない。そのため、これまでの浮世絵の研究では描かれた動物についてさほど関心が払われてこなかった。最近になって浮世絵の動物が注目されるようになったのは、二十一世紀に入っ

て日本美術への関心が高まっていく中、綺麗な作品や可愛らしい作品、ユーモラスな作品を素直に楽しむ風潮が生まれたという背景が大きいだろう。動物というテーマは、アートに関する小難しい基礎知識がなくても、身近な題材として誰もが気軽に鑑賞できるものであった。特に「かわいい」というキーワードは、二十世紀までの美術鑑賞では積極的に用いられることの無かった言葉だが、今では動物の浮世絵を語る際に欠かせないものとなっている。

では、浮世絵の中で動物たちはどのように描かれているのだろうか。本稿では大きく四つに分けて紹介することにする。すなわち、①暮らしの中の動物たち、②デザインとしての動物たち、③擬人化された動物たち、④花鳥画としての動物たち、である。



図1 歌川国芳
 「山海愛度図會 ヲゝいたい」 嘉永5(1852)年
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1306561>

暮らしの中の動物たち

まずは暮らしの中の動物たちを見てみよう。江戸時代の人々は金魚や鼠、鳥など、さまざまな動物をペットとして愛玩したが、その筆頭に挙げられるのが猫である。飼い主である女性と一緒にいる姿が描かれることが多く、大事そうに可愛がられていることもあれば、人間の仕事を傍若無人に邪魔していることもある。

例えば歌川国芳の「山海愛度図會 ヲゝいたい」(図1)は、赤い首輪を付けた猫が爪を立て、鋭い目つきで飼い主に噛みつきそうとしている様子を描いている。何か気に入らないことでもあったのだろう。猫に襲われている飼い主の女性は、作品の題名通り、「おお、痛い」といった心境なのだろうが、その表情はさほど痛そうにも見えないどころか、ちよつと嬉しそうだ。可愛がつている猫に怒られても、それさえ愛らしいと感じてしまう飼い主の心情を見事に捉えている。

猫に次いで浮世絵に多く描かれたペットが、狎ちんと呼ばれた小型犬である。現在、狎と言えば白地に黒か茶の斑模様まだらが一般的だが、江戸時代は室内で飼う小型犬全般を狎と呼んでいたようだ。身分の高い

※図1～図6及びp.5の浮世絵・絵本はいずれも国立国会図書館所蔵。
 URLは国立国会図書館デジタルコレクションのURL



図2 二代歌川広重
「東都三十六景 高輪海岸」文久2(1862)年
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1303603>

武家や裕福な町人、あるいは遊郭の花魁の座敷で大事に可愛がられており、時には座布団に座らせてもらえるほど甘やかされていることもある。

さて、暮らしの中の動物と言った場合、該当するのは猫や狎といったペットだけではない。ベットに次いで身近な存在となるのが屋外で気ままに暮らす野良犬だろうが、ここで紹介したいのは、人間の暮らしを手助けしてくれる動物たち、すなわち、重い荷物や人間を運んでくれる牛や馬である。

二代歌川広重の「東都三十六景 高輪海岸」(図2)は現在の東京都港区高輪を舞台とした浮世絵である。東海道から江戸の町に入る高輪大木戸という玄関口があったことから、常に往来する人々にぎわっていた。そのため荷物を運搬する労働力として牛が重宝されており、『江戸名所図会』によればこの地域には千頭以上の牛がいたと言う。この作品では、くびぎをかけられた牛が画面手前に大きく描かれている。大八車に積んだ重たい荷物を牽引している最中なのだろう。高輪海岸という名所を描くにあたり、この町



で働く牛の姿が一つの象徴となっているのである。ちなみにこの牛は白黒模様だが、ホルスタインが日本に輸入されるのは明治時代以降のことである。

そして、日常ではなく非日常的な体験になるが、見世物小屋にやって来る珍しい動物たちというのも、当時の人々が暮らしの中で遭遇する動物たちだった。幕末には海外から渡来した象や豹、虎などが大きな話題となり、その様子を伝える浮世絵が数多く出版された。

明治時代に入ると海外からサーカス団がやってくるようになる。明治十九(一八八六)年、イタリアのサーカス団ジョゼッペ・チャリネの一座の興行が人気を集め、やはり浮世絵がその様子を伝えた。楊洲周延ようしゅうちかのかぶの「世界第一 チャリネ大曲馬之図」(図3)を見ると、輪をくぐる虎、馬の背中で跳ねるスカートをはいた猿、後ろ足で立つ馬や象、曲芸をする男女を乗せて走る馬、そして、ライオンなど、さまざまな珍しい動物たちと出会えたことが分かる。動物を描いた浮世絵には報道画としての役割もあったのである。



図4 うたがわくにさだ (三代豊国)
「江戸名所百人美女 薬げんぼり」安政5(1858)年
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1311372>



図3 楊州周延
「世界第一 チャリネ大曲馬之図」明治19(1886)年
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1306264>

デザインとしての動物たち

浮世絵に描かれた動物たちの二番目のカテゴリーが、デザインとしての動物たちである。現在でも動物をデザインしたグッズというものは巷に溢れているが、その感性は江戸時代も変わらない。着物や簪、団扇といったファッションアイテムから、屏風や衝立、火鉢といったインテリアまで、生活の至る所に動物文様のデザインを発見することができる。鶴や亀といった現代でも共通するおめでたい吉祥文様もあれば、コウモリや蛇のような、今では広くは用いられないデザインもある。

ユーモラスな動物ファッションを紹介しよう。歌川国貞(三代豊国)の「江戸名所百人美女 薬げんぼり」(図4)では、風呂から上がった女性がまとっている浴衣に大きな蛇の模様が描かれている。愛敬のある顔をこちらに向けた蛇は、まるで頭をかいているかのような仕草をしている。現在の私たちが着るにはちょっとと勇気が要りそうなデザインだが、この女性にとってはごくありふれた日常の普段着なのであろう。動物のデザインはこの蛇のように大胆で目立つものから、



じっくり見ないと気が付きづらい小さなものまで、さまざまな工夫が凝らされている。

擬人化された動物たち

浮世絵に描かれた動物としての三番目
が、擬人化された動物たちである。顔が
動物で体が人間というものが一番多い
が、体は魚や亀なのに顔だけが歌舞伎役
者の似顔絵になっていたり、顔も体も動
物なのにまるで人間そっくりの動作をし
ていたりなど、その表現は幅広い。現代
の漫画やアニメのキャラクター顔負けの
発想力豊かな作品ばかりである。

歌川国芳の「里すずめねぐらの仮宿」(図)

5) は、顔が雀で体が人間というパター
ンである。舞台は遊郭で、張見世に
花魁たちを見物する男性客たちで往来は
混雑している。美しく着飾った花魁も、
刀を差した武士も、料理を運ぶ下働きも、
登場人物全てが雀である。一羽一羽(一
人一人?)の表情や仕草は豊かであり、
楽しいな会話が聞こえてきそうだ。当時
の人々たちも賑やかな雀たちの世界を笑
顔で眺めたことだろう。

だが、このような擬人化された動物の



図5 うたがわくによし 歌川国芳
りしすずめ 「里すずめねぐらの仮宿」 弘化 3(1846) 年
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1307833>

絵が制作される背景には、当時の出版事情があつた。「里すずめねぐらの仮宿」は、吉原遊郭が火災にあつた際、仮宅かりたくと呼ばれる仮営業所で活動を始めたことを伝えるもののだが、天保の改革によつて遊女を描くことを幕府から禁止されていたため、それを逆手に取つて、人間を雀の姿に置き換えたのである。ちなみに題名の「里雀さとすずめ」とは遊郭に通い慣れた人のことを指す。もちろん擬人化された作品すべてが幕府からの規制に由来するものではないが、「里すずめねぐらの仮宿」のように、庶民たちによるお上へのささやかな抵抗という意味合いが含まれることもあつた。

花鳥画としての動物たち

最後に取り上げるのが、花鳥画としての動物たちである。四季折々の草花や鳥、虫を描く花鳥画は古くから日本絵画の主要なジャンルであり、江戸時代であれば狩野派や円山四条派まるやましじょうはといった、あらゆる流派の絵師が必ず手掛けるものであつた。だが浮世絵の場合、不思議なことに他の流派の絵師たちに比べると、その制作数は多くない。庶民向けの娯楽とし



たページ <https://dl.ndl.go.jp/pid/8943230/1/3> (右) 鶏と類白、朝顔が描かれたページ <https://dl.ndl.go.jp/pid/8943229/1/8>

て販売される浮世絵にとって、花鳥画のニーズはそれほど無かったのであろう。ここでは珍しい作例として喜多川歌麿の『絵本百千鳥』(図6)、『百千鳥狂歌合』(の後摺本)を紹介しよう。この作品はこれまで紹介してきたような一枚摺の版画でなく、絵本である。見開きの画面に鳥や草花(右図では鶏と類白、朝顔。左図では木菟と鷺)が描かれ、狂歌という和歌のパロディーが添えられている。注目すべきは、浮世絵らしからぬ写実的なタッチで描かれた鳥と花である。廉価で販売された浮世絵版画とは違い、趣味人に向けて潤沢な資金で制作された絵本であったため、手間のかかる彫りや発色の良い絵具による贅沢な作りとなっている。伝統的な花鳥画というジャンルは趣味人たちに広く好まれたようである。

以上、浮世絵に描かれた動物たちを四つのカテゴリーに分類して紹介した。これらのカテゴリーに収めづらい動物たち、あるいは、実際には存在しない妖怪のような動物たちも含めれば、浮世絵に描かれた動物たちをもっとたくさん見つけることができるだろう。また、幕末か

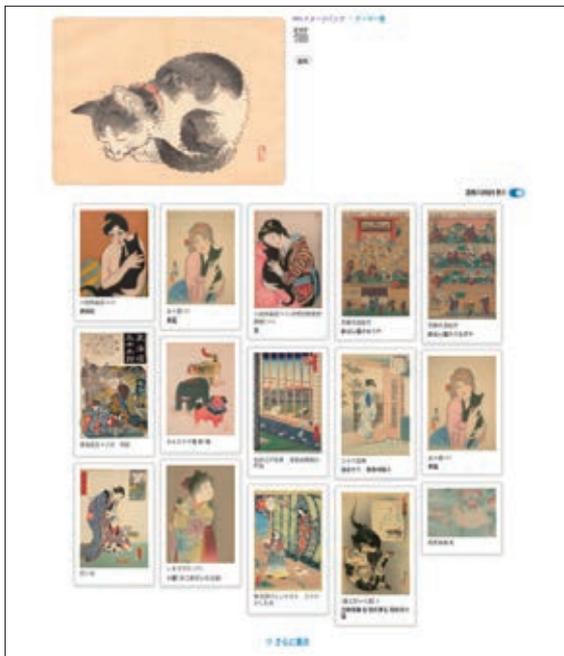


図7 NDL イメージバンク
 (上)「動物を描く」のページ (下)「猫」のページ
<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank>



図6 喜多川歌麿 きたがわうたまろ
 [赤松金鶏] [選] 『絵本百千鳥』 えほんももちどり 1,2 寛政2(1790)年頃
 (左)表紙 <https://dl.ndl.go.jp/pid/8943229/1/1> (中央) 木菟と鶯が描かれ

ら明治にかけての浮世絵は、これまで注目される機会が少なかったため、まったく知られていない可愛くてユーモラスな動物たちもまだまだ眠っている。

国立国会図書館のNDLイメージバンクでは「動物を描く」として浮世絵を含むさまざまな動物の画像がまとめられており(図7)、次世代デジタルライブラリーの画像検索 (<https://lab.ndl.go.jp/dl/illustration>)ではまだ見ぬ動物たちを探すことができよう。浮世絵に描かれた動物を通して、動物たちと過去の私たち、さらには現代の私たちとのさまざまなつながりを発見してほしい。



画像はNDLイメージバンク (<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank>) 特集「動物を描く」から



動物たちは書物の中にも

今月号の記事「浮世絵と動物」はもうお読みになったでしょうか。記事の中で紹介されているように「NDLイメージバンク」でも、動物たちの画像をご覧になれます。

NDLイメージバンクは、令和4年3月の公開から、今月で2周年！ 公開当初約1500点だった画像は、今では8500点以上になりました。この1月にはリニューアルして、新たに検索機能を設けています。

さっそくQRコードからアクセスして、NDLイメージバンクで動物の画像を見てください。動物の画像は、特集「動物を描く」というページにまとめて紹介しています。ちなみに「動物を描く」の白い猫の画像（上掲画像の左上）は、明治から昭和にかけて活躍したグラフィックデザイナーである杉浦非水が、百貨店の広報誌『三越』の表紙として描いたものを利用しています。この例からもわかるように、NDLイメージバンクでは、浮世絵のほかにも、雑誌の表紙や口絵、小説の挿絵、画集、図鑑、カタログ、見本帳など、様々な資料に由来する画像を掲載しています。油絵や屏風絵のような一点ものの美術品とは一味違う、書物ならではの魅力が感じられるのではない

でしょうか。

ところで、NDLイメージバンクは見て楽しむだけのものではありません。掲載画像はすべて著作権保護期間が満了していますので、出典を記載すれば手続き不要で画像を利用できます。書籍や論文などへの転載やテレビ番組での放映はもちろん、SNSや動画コンテンツ、Tシャツのプリント、ブックカバー、アクセサリなど様々な利用されているようです。是非みなさんも工夫してご利用いただければと思います。

なお、江戸時代に描かれた動物をもっと見たい、深く知りたいという方は、電子展示会「描かれた動物・植物―江戸時代の博物誌」もご覧ください。動物の画像だけでなく、国立国会図書館の所蔵資料について興味があるという方には、入門として、ミニ電子展示「本の万華鏡」、NDLギャラリーなどもおすすめです。また、オンラインでの展示だけでなく、今年の秋には現物の企画展示の開催も予定しています！ 国立国会図書館の展示会なんて知らなかったという方は、是非SNSをフォローして、最新の情報に触れてください。

（サービス企画課 展示企画係 猫空）

「国立国会図書館サーチ」を リニューアルしました

令和 6（2024）年 1 月 5 日、従来のウェブサービス「国立国会図書館サーチ」と「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」を統合・リニューアルし、「国立国会図書館サーチ」（略称：NDL サーチ）としてサービスを開始しました。

2 つのサービスの統合でどのようなウェブサービスが生まれたのか、本稿では新サービスの特徴をご紹介します。



「国立国会図書館サーチ」トップページ

●令和 6（2024）年 1 月 4 日に提供が終了したサービス



「国立国会図書館サーチ」

従来の「国立国会図書館サーチ」は、当館をはじめ、全国の公共・大学・専門図書館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できる「『知』のアクセスポイント」として、平成 22（2010）年 8 月に開発版を公開し、平成 24（2012）年 1 月からサービスを提供してきました。



「国立国会図書館オンライン」

「国立国会図書館オンライン」は、当館所蔵資料と当館で利用可能なデジタルコンテンツの検索・申込みサービスとして、平成 30（2018）年 1 月にサービスを開始し、当館資料の利用の窓口としてご利用いただけてきました。

図書館の資料やデジタルコンテンツなどの多様な資料を探しやすくしました

国立国会図書館の資料と他機関の資料を一度に検索

従来の「国立国会図書館サーチ」の特徴を活かし、国立国会図書館の所蔵資料やデジタルコンテンツに加え、他機関の所蔵資料等を一括して検索できます。検索できる資料を国立国会図書館のみに限定したり、全国の図書館を含めたり、インターネットで閲覧できるデジタルコンテンツに絞ったりすることで、用途に応じた使い分けが可能です。



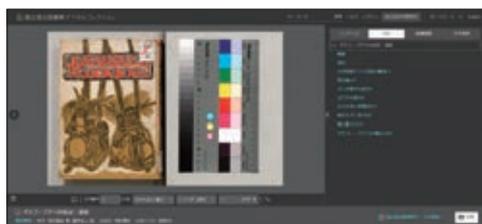
トップページ（簡易検索）

デジタルコンテンツにワンクリックでアクセス

ログインなしで利用できるデジタルコンテンツには「すぐに読む」のボタンを表示し、直感的に操作できるようにしました。



書誌詳細画面上段（国立国会図書館のデジタルコンテンツがある場合）



デジタルコンテンツが存在する場合、ワンクリックで、「国立国会図書館デジタルコレクション」などの収録元データベースにアクセスできます。この例では、「国立国会図書館デジタルコレクション」（左図）に遷移して、資料を読むことができます。

資料の入手手段を分かりやすく表示

デジタルコンテンツのない場合にも、国立国会図書館や全国の図書館の資料を利用するためのボタンや、書店で探すボタンなどを表示して、資料の入手手段を分かりやすくしました。

「図書館で読む」エリアでは、国立国会図書館の所蔵状況を確認して、資料の閲覧・入手のために利用可能なサービスに移動できます（この画面はログイン中の状態です）。

また、全国の図書館等における所蔵状況を確認できます（「所蔵している図書館を見る」を押すと画面中段の「全国の図書館の所蔵」へ移動します）。



「書店で探す」のエリアから、図書館サービス以外での入手手段も確認できます。

書誌詳細画面（デジタル化されていない資料の場合）

書誌詳細画面中段の「全国の図書館の所蔵」エリアでは、都道府県立図書館、政令指定都市立図書館、大学図書館、専門図書館、学術情報機関等の所蔵状況について一覧で確認できます。

国立国会図書館のサービスの申込みを分かりやすくしました

書誌詳細画面中段の「国立国会図書館の所蔵」エリアでは、国立国会図書館の施設別の所蔵状況について一覧で確認できます。ログインしている場合は、資料ごとの利用可能なサービスの案内や、申込手順を始めるためのボタンも表示します。

それぞれのボタンを押すと、申込カートに申込種別ごとに資料を入れることができます。



中略



来館しなくても複写物を郵送受取で入手できる、「遠隔複写」用の申込カートに資料を入れることができます。

書誌詳細画面（非来館時の状態）

国立国会図書館に来館する前にあらかじめ、「閲覧」用の申込カートに閉架（書庫内）の資料を入れておくことができます。「申込カートに入れておく（閲覧）」ボタンをクリックすると、「閲覧」用の申込カートに資料が入ります。



申込カートに追加したときのダイアログ

申込カートは、「閲覧」や「遠隔複写」など、サービスごとに分けて表示します。

来館時は、申込カートにあらかじめ入れておいた情報から閲覧申込手続へ進むことができます。改めて検索する必要はありません。申込手続へ進むボタンをクリックすると、各サービスに応じた申込手続ができます（右図）。画面上部に申込手続のステップを示し、申込完了までの流れを確認しやすくしました。

申込カート

・申込みの受付は完了していません。アイテムを選択して申込手続に進んでください。
・資料の状況により、予告なく申込カートからアイテムが削除されることがあります。

東京本館 図書カウンター・図書別室

2件 選択中 あと 3件 可能

すべて解除

閲覧

東京本館 図書カウンター・図書別室

2件 選択中 あと 3件 可能

すべて解除

国書情報学基礎資料 第4版

資料ID: 1202200119249
今まど子, 小山薫司 編著 樹村房 2022 <UL3-M9>

国書情報学基礎資料 第4版

資料ID: 1200501112535
竹内将俊, 田村正文, 藤崎一浩 著 東京農業大学出版会 2005 <RA455-H56>

遠隔複写(郵送受取)

1回の発送ごとに送料と発送手数料がかかります。遠隔複写の料金について
別々に申込手続をした複写物をまとめて発送することはできません。

7件 選択中 あと 23件 可能

すべて解除

児童文学者人名事典 外国人作家編

資料ID: 1200300411177
中西融夫 編 出版文化研究会 2000 <K6112-G13>

複写箇所を指定

複写箇所を編集

申込カートから削除

遠隔複写のように、館外から申し込むサービスについては、来館時は、申込手続へ進めないようになっています。

申込カート画面（東京本館来館時の状態）

遠隔複写（郵送受取）の場合は、申込完了画面で、複写物の受け取りから料金のお支払いまでの流れをイラストで示し、サービスの全体像を分かりやすくしました（右図）。

「知りたい」を支援する情報提供を充実させました

資料・情報の探索に活用できるよう、タイトルやキーワードなどによる検索結果に、関連する調べものに役立つ情報をあわせて表示します。

「リサーチ・ナビ」や「レファレンス協同データベース」で提供するレファレンス情報を通じて、「知りたい」情報へ、より効率よく、幅広くアクセスできるようサポートします。

ヒットした資料の書誌情報を一覧表示します。



中略

検索結果一覧画面

検索結果一覧画面の下部では、関連する調べ方のヒントや事例等を表示して、調べものをサポートします。

例えば、「国立国会図書館の調べ案内」の「絵はがきを探す」をクリックすると、「リサーチ・ナビ」の画面（下図）に遷移し、絵はがきの探し方を確認できます。



国立国会図書館の書誌データを、より利用しやすくしました

図書館等で利用されている MARC 形式、MARC タグ形式をはじめ、書誌情報出力機能で選択可能なすべてのデータ形式で、検索結果一覧やお気に入り画面から、書誌データを複数件まとめて出力できるようにしました。書誌詳細画面からの 1 件ずつの出力もこれまでどおり可能です。

また、全国書誌データ（国立国会図書館が収集した国内出版物及び外国刊行の日本語出版物の標準的な書誌データ）に特化した「全国書誌データ検索」など、特定の書誌データを対象を絞った各種の検索画面を新設しました。これらの検索画面には独自の検索項目等を設け、国立国会図書館の書誌データをより便利に検索し、出力できるようにしています。

API による書誌データの提供も継続しています。

「全国書誌データ検索」トップページ

書誌データ提供の詳細について（予告）

「国立国会図書館サーチ」での書誌データの提供については、本誌758号（2024年6月刊行）に掲載を予定している全国書誌データ等の当館作成書誌データの提供に関する記事の中で、より詳しくご紹介する予定です。

そちらもあわせてご覧いただけますと幸いです。

第3回

NDL Ngram Viewerの使い道

日比嘉高

Hibi Yoshitaka



名古屋大学大学院人文学研究科 教授
 (日本近現代文学・文化論)
 小説とプライバシーの問題、移民文学、出版文化論、デジタル・ヒューマニティーズなどに関心を持って研究している。著書に『自己表象』の文学史——自分を書く小説の登場』（翰林書房）、『ジャパニーズ・アメリカ——移民文学、出版文化、収容所』（新曜社）、『いま、大学で何が起きているのか』（ひつじ書房）、『文学の歴史をどう書き直すのか——二〇世紀日本の小説・空間・メディア』（笠間書院）、『プライバシーの誕生——モデル小説のトラブル史』（新曜社）などがある。

国立国会図書館は、デジタル化された資料を対象に、OCR技術を用いたテキストデータを進めています。本連載では、作成されたテキストデータの中の語彙の出現頻度を視覚化できるNDL Ngram Viewerを活用して、出版物の中の語彙の使われ方を考えます。第3回目は、日本近現代文学の専門家に寄稿していただきました。

NDL Ngram Viewerが公開されてから、一年半ほど経つだろうか。今や、このツールは、私の研究や教育において欠かせないものとなっている。私の専門分野は日本近現代文学・文化研究であるが、最近、他の研究者や学生の前で、デジタル・

ヒューマニティーズ的な日本近現代文学研究にどのような可能性があるかについて話す機会が増えた。そんなときにも、NDL Ngram Viewerは格好のサンプルとなる。NDL Ngram Viewerの優れている点

は、3つあると私は考えている。(1)直感的な操作に優れていること、(2)視覚的な示唆に富んでいること、(3)さらなる資料探査への窓口となっていること、である。以下、具体的な例を示しながら説明してみる。

(1) 直感的な操作に優れていること

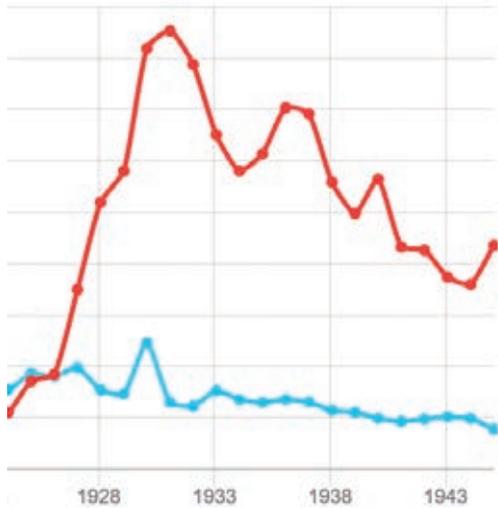
NDL Ngram Viewerの操作はシンプルだ。キーワードを放り込めば、誰でも使える。結果も折れ線グラフで示されるから、直感的にわかる。この特長は、セミナーなどで受講者に試用してもらうときに、威力を発揮する。なにしろ図書・雑誌資料約230万点(2024年1月現在)の本文の中から、そのキーワードを数え上げてくれるのだ。

(2) 視覚的な示唆に富んでいること

NDL Ngram Viewerのグラフが描く軌跡は、示唆に富んでいる。上下の軌跡は、そのキー

出版年代の範囲

対象の件数 (デフォルトは上位5件)



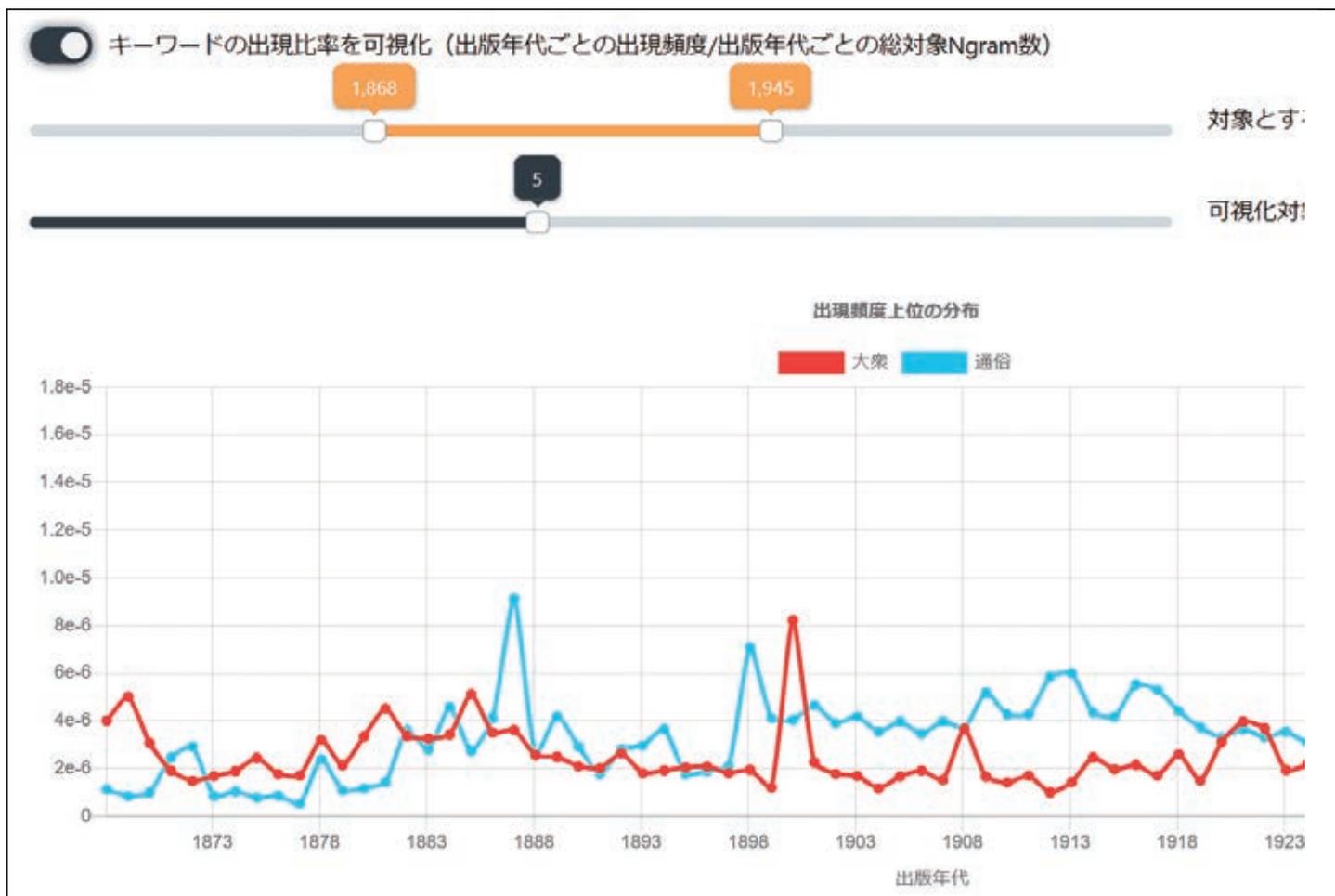


図 図書・雑誌を対象に「大衆 / 通俗」で検索した結果

NDL Ngram Viewer <https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/>
 検索結果の取得日 2024年1月9日

ワードが、各時期にどのぐらいの規模の広がりを持っていたのかを示し、その語の歴史の一面を示してくれる。しかも、NDL Ngram Viewer は、キーワードを5つまで同時に検索し、結果を示すことができる。たとえば、「通俗」「大衆」の語を、NDL Ngram Viewer で表示させてみた結果は図のようになる。日本近現代文学研究では、大正末〜昭和戦前期に大衆文学が興隆し、それまでの通俗文学のあり方が更新されていったことが知られている。二つの語の軌跡から、文学史との交差を考えてみてみるではないか。

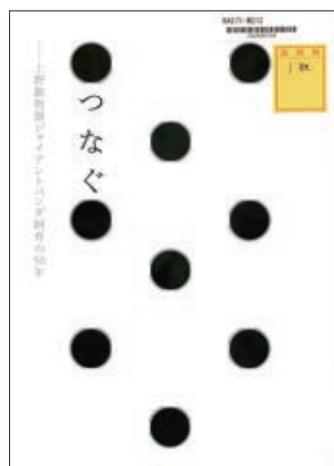
(3) キーワードを資料探査への窓口とすること

グラフの各点をクリックすれば、利用者はそのまま国立国会図書館デジタルコレクションにおける当該キーワードの検索結果へと遷移できる。この仕組みは秀逸だ。以前、私は「私小説」に関連するキーワードをNDL Ngram Viewerを用いて調べてみたことがある。その際、そのキーワードの初出のデータはもちろん、突出した時代に、いかなる資料がその語の使用量を押し上げているのかを調べることができた。簡単に。これは研究ツールとしても非常に強力だ。

以上、駆け足であるが私の見たNDL Ngram Viewerの使い道を示してみた。いま、Ngramだけでなく、データ・マイニングの手法はさまざまに現れている。NDLのラボから、睥睨するような「次のツール」が現れることを、確信しつつ期待している。

本屋に

ない本



つなぐ 上野動物園ジャイアントパンダ飼育の50年

東京動物園協会恩賜上野動物園
2023.3
271 p; 31 cm
<請求記号 RA571-M212>

日本で初めてのジャイアントパンダが上野動物園にやってきたのは1972年。それ以降同園では7頭の赤ちゃんが誕生し、飼育したパンダは15頭に上る。本書は長きにわたりパンダ人気を支えてきた上野動物園の50年の飼育や取組の記録である。

パンダといえば、丸っこくのっさりとしていて、愛嬌たっぷりの姿を思い起こす人も多いだろう。本書には、数々の愛くるしいパンダの写真とともにパンダに間近で接してきた飼育員ならではの歴代パンダの様々なエピソードが詰まっている。例えば、メキシコの動物園との共同繁殖事業のため、同園からやってきたメスのシユアンシユアンは図太くてお転婆。長時間のフライト

を終えて到着した後、渡されたリンゴをペロツと平らげ、通関手続中は居眠り、パンダ舎に設置したスノコを一晚で破壊してしまつたらしい。逆にシユアンシユアンを迎えたオスのリンリンは終始押し気味。残念ながらこの2頭の間に子が誕生することは無く、リンリンはシユアンシユアン帰国後も彼女がお気に入りだった場所には近づこうとしなかつたという。

人々に癒しをくれるパンダだが、絶滅の危機にあり、繁殖の難しさで知られる動物でもある。上野動物園は日本で初めてパンダの繁殖に成功しており、今までの繁殖の取組については本書で多くのページが割かれている。パンダの発情の兆候は、毎日の行動観察

に加え、尿中ホルモン値など様々な検査データから総合的に判断する。そして繁殖に最適と考えられる時にオスとメスを同居させるのだが、そのタイミングを計るのがとても難しい。パンダの行動が前例どおりにいくとは限らず、時に「これは発情の兆候？」とスタッフが首をかしげるような予想外の行動に出ることもあるからだ。上野動物園でパンダの赤ちゃんが誕生するとニュースですぐに取り上げられるほど世間から注目を集めるが、その分、繁殖に関わる人々のプレッシャーは並大抵のものではないだろう。そんな中でも、スタッフの日々の地道な試行錯誤と経験の積み重ねによって、長い年月、上野動物園がパンダの保全活動に寄与

してきたのだと知った。また、こうしたパンダの保護研究プロジェクトは、パンダにじかに接する飼育員や獣医師だけでなく、立場は違えど多くの人々の支えによって成り立っている。パンダの来日に際し中国との交渉や事務手続に奔走する担当者、赤ちゃん誕生から様子を記録し続ける広報力メラマン、より安全なパンダ舎に改修する整備担当者……こうした様々な立場からの記録も本書で見ることが出来る。本書のタイトルである「つなぐ」——これにはパンダに関わってきた人々の、後世に種を残すという思いが感じられる。パンダを通して動物保護について考えさせられる一冊である。(本問渚沙)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

NDL Topics

国際子ども図書館展示会 「子どもの本の夜明け 帝国図書館展」

国際子ども図書館は、1906年に帝国図書館として開館した建物をリノベーションして活用しています。帝国図書館と前身の東京図書館の時代は、日本の子どもの本が産声を上げ、時代の変遷とともに成長していった時代でもあります。

この展示会では、近代日本の子ども本の歩みをたどりつつ、子ども本の作者たちと帝国図書館とのエピソードについても紹介します。名立たる文字者たちのテキストから、彼らの子ども本への貢献や帝国図書館との関わりが読み取れます。

普段は撮影禁止の会場内も展示会期間中、一部を除いて自由に撮影できます。

子どもの本の黎明期を生き、今なおイメージの源泉であり続ける帝国図書館。その建物を引き継ぐ国際子ども図書館で、その魅力を探ってみませんか。

○開催期間 3月26日(火)～6月23日(日)

※月曜日、国民の祝日・休日(5月5日のこどもの日は開館)、毎月第3水曜日(資料整理休館日)は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課展示係
電話 03(3827)2053(代表)



展示会「子どもの本の夜明け 帝国図書館展」
ちらし

資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

○対象資料

東京本館所蔵の和図書 約71万9千冊

○利用休止予定期間

令和6年4月1日から令和7年6月30日まで

○対象資料

国際子ども図書館所蔵の和図書 約2万3千冊

○利用休止予定期間

令和6年3月12日から令和6年11月30日まで

※ご利用いただけない資料は、国立国会図書館サーチの書誌詳細画面の「国立国会図書館の所蔵」で「作業中」の表示でお知らせしています。ご利用にあたっては、事前に検索してご確認ください。
※詳細については、国立国会図書館ホームページ資料の保存・資料デジタル化について、デジタル化作業に伴う原資料の利用休止についてに掲載しています。

ご不便をおかけしますが、国民の文化的資産を後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

新副館長就任

片山信子国立国会図書館副館長が令和5年12月31日付けで退任し、令和6年1月1日付けで山地康志が副館長に任命されました。



山地康志副館長

おもな人事

△退職▽

令和5年12月31日付け

副館長

片山 信子

△異動▽ ※ () 内は前職

令和6年1月1日付け

副館長(総務部長)

山地 康志

総務部長、利用者サービス部長兼務(利用者サービス部長)

木藤 淳子

令和5年度東日本大震災アーカイブシンポジウム「震災遺産と地域文化の継承を目指して」を開催しました

令和6年1月8日、東北大学災害科学国際研究所多目的ホールの会場およびオンラインにて、東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所との共催により、毎年1月に開催しているものです。

今年度は、震災記録と地域の歴史文化の伝承のための取組をテーマとしました。東京電力福島第一原発事故による避難指示区域の解除が進み、今後アーカイブの構築が期待される大熊町、富岡町、浪江町、双葉町から事例が報告されました。また、国立国会図書館および東北大学災害科学国際研究所から震災アーカイブに望むことや意義について報告が行われました。

続くパネルディスカッションでは震災遺産と地域文化の継承を目指すなかでの各自治体の課題について意見交換後、被災の経験を踏まえて能登半島地震の被災者・支援者に対して伝えたいことについて議論されました。



国立国会図書館からの報告



パネルディスカッション

シンポジウムの詳細は以下に掲載しています。
<https://kn.ndl.go.jp/static/2023/11/171>

令和5年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

令和5年12月14日、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、国立国会図書館が、国公立大学図書館協力委員会委員館の図書館長及び関係機関の代表者を招いて毎年行っているものです。昨年度に引き続き、オンライン形式により行いました。

はじめに、当館から青池亨電子情報部電子情報企画課次世代システム開発研究室開発研究員が、当館のOCR関連事業や、テキストデータを活用した実験サービス等について紹介しました。次に、大学図書館からの報告として、大山努東京大学附属図書館事務部長が、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業と同館におけるテキストデータの活用について報告し、続いて、関秀行慶應義塾大学メディアセンター本部事務局長が、同センターにおけるデジタルコレクションのテキストデータ付与の取組についてデモを交えて紹介しました。

その後に行われた意見交換では、出席の大学図書館長が、OCR事業に対する学生の関与及び各機関同士の連携について今後の期待を述べました。また、OCRの文字認識率の精度に関する質疑がありました。



令和5年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

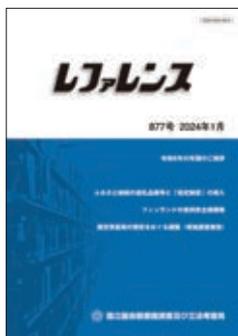
新刊案内

レファレンス 877号

令和6年の年頭のご挨拶

ふるさと納税の返礼品競争と「指定制度」の導入―「指定制度」の下で返礼品競争は解消したのか―
 フィンランドの食料安全保障策―備蓄制度を中心として―

固定資産税の徴収をめぐる課題―関西地方における適正な徴収に向けた取組―(現地調査報告)



A4 65頁 月刊 1,100円 (税込)
 発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104・0033 東京都中央区新川1・11・14

電話 03(3523)0812

『国立国会図書館月報』令和6年刊行予定

令和6年は、左記の号を合併号として刊行する予定です。

・759/760号 (令和6年7/8月)

・761/762号 (令和6年9/10月)

3

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.3

NO.755
MARCH
2024

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Detarame: Manners taught by the future Prime Minister
- 05 Animals painted in ukiyo-e HINOHARA Kenji
- 15 The new NDL Search has launched
- 22 <Using NDL Ngram Viewer>
(3) Effective use of the NDL Ngram Viewer HIBI Yoshitaka
- 14 <Tidbits of information on NDL>
Animals in the NDL Image Bank
- 24 <Books not commercially available>
Tsunagu: Ueno dobutsuen jaianto panda shiku no 50nen
- 25 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和6年3月号 (No.755)

令和6年3月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集責任者 川西晶大

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、
事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 4 . 3

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士